

【事例紹介】

博士の学位取得を支援

-FASID 奨学金プログラム-

FASID Scholarship Program: Assistance for Higher Education

一般財団法人国際開発機構 (FASID) 人材開発事業部 服部 洋子

HATTORI Yoko

(Department of Planning and Program,

Foundation for Advanced Studies on International Development)

キーワード：国際開発、博士、給付、公益目的、人材育成、留学支援

はじめに

大学教育費の無償化や国による給付制奨学金制度について各方面での議論が活発化している。当財団、一般財団法人国際開発機構 (FASID) では、現在の組織へ移行前の旧法人による事業を含めて、国際開発関連分野の海外の大学における、修士号以上の学位取得を目指す学生を支援する給付制奨学金プログラムを継続して行っている。本稿では、現在の組織による「FASID 奨学金プログラム」について紹介する。なお、FASID 奨学金プログラムでは日本国内および海外留学のいずれでの修学も対象としているが、本稿では留学支援の視点を中心に記す。

本プログラムの受給者・奨学生は公募によることとしており、2017年度は、本年9月から2018年1月11日（正午迄）を応募受付期間としている。大学・大学院の先生方、博士課程進学検討・準備中の各位、関係諸機関のみなさまには、本稿を機に本プログラムへの理解を深めていただければ幸いである。

1. 国際開発機構 (FASID) について

財団法人国際開発高等教育機構 (FASID) は、1990年、社団法人経済団体連合会（当時。現・一般社団法人日本経済団体連合会）の積極的な協力の下に設立された財団法人である（外務省・文部科学省共管）。2012年10月、公益法人法改正に伴い一般財団法人に移行し、現在の組織となった。

旧法人では、研究者等の海外派遣事業・高等教育学位プログラムによる奨学金プログラムを実施し

た。同プログラムは、海外の大学において修士号以上の学位取得を目指す学生を支援する給付制奨学金制度である。同派遣事業ではそのほかに、国連・世界銀行等の国際機関での実務研修を支援する「国際機関プログラム」や、海外の大学および研究所で研究・調査等を実施する研究者等を支援する「研究フェロープログラム」等を行なった。のべ321名の派遣を通じて、人材の育成・振興を図った。

その後、組織の移行に伴い策定した公益目的支出計画では、次の事業を行なうこととした。第一に、「開発援助人材育成事業」として研修の実施、第二に「国際開発セミナー事業」としてセミナーの開催、第三に学術の振興あるいは実践活動向上の見地により「国際開発研究大来賞」という名称の研究図書顕彰事業である。第四に「開発関連分野大学院奨学金事業」があり、FASID 奨学金プログラムを事業名称にして2012年秋、1期生にあたる奨学生公募を開始した。

2. FASID 奨学金プログラムの概要

(1) 目的、分野、対象

FASID 奨学金プログラムは、国内外の国際開発関連分野の大学院で学ぶ日本人材への支援を通じて、当該分野における高度なレベルの人材育成の促進に資することが目的である。育成する人材像は、博士の学位取得を目指し、将来国際開発関連分野で実務者として活躍する意思のある人材としている。

対象分野は地球規模の課題を含む国際開発研究分野であり、特定分野の高度かつ個別的専門的な研究（医療技術等）は対象外としている（ただし例えば医学系では、公衆衛生や緊急医療分野は対象である。その応募者は近年増加傾向にあり、採用実績もある）。

対象者の学年次は、博士課程（含5年一貫制博士課程）であれば問わないこととしており、新規入学者（含応募時修士課程在籍）、既入学者も応募可能である。なお、休学中の場合も応募は可能であるが、支援希望年次開始までに正規復学を要件としている。

(2) 支援期間、開始時期、奨学金の額他

支援期間は、1名・3年間（学年暦）を最長、1回の応募・選考による支援・給付は1年間（学年暦）単位としている。従って1年間（学年暦）を超える支援については、本人からの申請に基づき、審査を経て継続可能である。

奨学金は、修学先大学へ納付する費用（入学金・授業料の実費を基礎）および研究費（月額定額制）を一定の上限額の範囲で給付することとしており、各年度の採用規模は、新規3名程度である。

また、支援期間は学年暦単位としているため、新規入学者は入学月から、既入学者は新たな学年となる月からとしている。

3. 本プログラムの特徴

本プログラムの特徴でもあり、関係者の方々の関心も高いと考える点を紹介する。

(1) 支援期間中の就業について

本プログラムでは、次の理由から支援期間中の就業も認めることとしている（事前届出制）。

・博士課程であるため、実務を経て大学院へ改めて入学する者の割合も高い他、各応募者・奨学生の状況も多様である。学究意欲と能力があるにもかかわらず、学業に専念できる経済状況にあるとは限らない。

・国際開発分野は現場経験や実務と密接な関係があるので、就業しながら学究を通じた知見の深化、専門性の向上を目指す修学はむしろ奨励に相応しい。

従って、例えば（国内外によらず）職務を持ちつつ、夜間や週末にスクーリングに通う修学者・予定者も、支援の対象としている。

(2) 継続申請について

例えばアメリカでは博士の学位取得は学士号取得後3から5年程は必要となっている。本プログラムによる支援は1年（学年暦）単位であることは前述のとおりだが、延長受給のための継続申請を受理する運用としている。

継続申請については奨学生本人が、支援期間終了から2ヶ月以内に、所定様式に必要書類（当該期間に対する指導教授によるReview Form、成績証明書他）を添付し、申請することとしている。

おわりに

現在募集中の2017年度の募集・選考を経て採用される奨学生は、第6期生にあたる。

これまでの奨学生の学位取得・活躍の状況としては、例えば2期生（合計2名が第二次選考合格）のうち1名が、博士課程を修了した（学位：国際開発研究 / Ph.D. in International Development Studies）。卒業後の今春から国際機関に入職し、在外の本部事務所で勤務を開始している。

もう1名の2期生は、英国の大学での修学を継続している。

また、3期生（合計2名合格）のうち1名は、北米の大学で修学中である。本プログラム採用時は3年次だったが、延長受給を経て5年次に進級している。同人は4年次で博士号候補者（Dissertator）となり、現在は論文執筆の最終段階にあるとともに、国際機関（ワシントン本部）においてリサーチ・アシスタント実務従事、権威ある学術誌への論文投稿等を行なっている。その他3期生以降の奨学生もそれぞれに、各国・各地において修学を進めている。

奨学生の研究テーマを、参考に記す。

募集年	研究テーマ（論文執筆言語による表記）
2016【5期】	開発途上国における救急医療体制構築によるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進
	The causal effect of child marriage on contraceptive use, fertility and high-risk pregnancies in Nepal
2015【4期】	Hybrid organizations fighting for global health: Can socially motivated for-profits serve the extreme poor?
2014【3期】 (継続中)	The employment in the urban formal sector in developing countries -The impacts of labor regulation on the employment and firms' activities, and the impacts of intermediating rural-urban migration
2013【2期】	International Migration and Development: Evidence from Rural Households in Bangladesh
	Dynamic Skills Formation in Vietnam: Beyond a 'Demand-Driven' Paradigm
2012【1期】	BOP ビジネスと企業との開発パートナーシップ：企業との開発パートナーシップを通じたコミュニティ農業開発 -ケニアにおける農業関連資機材販売ビジネスとの連携を事例として

本奨学金プログラムは新規採用3名程度の事業規模であるが、国際開発分野の高等教育人材の育成・振興に今後も役割を果たしてゆければと考えている。

【募集の詳細】 <http://www.fasid.or.jp/activities/3_index_detail.shtml>

2017年度募集_応募受付期限 2018年1月11日(木) 日本時間 正午

* ご不明な点をご遠慮なくお問合せ下さい。

FASID 奨学金プログラム事務局 <[email:gakui@fasid.or.jp](mailto:gakui@fasid.or.jp)>

* なお、本ウェブマガジン次号(2017年12月号)には、英国で学んでいる本プログラム奨学生OBによるレポートの掲載を予定しています。ぜひつづけてご覧下さい。